

●第3回ひきこもり調査の示す実態像

令和4年度末に内閣府の第3回ひきこもり調査が公表されました。15才以上65才未満の生産年齢で推計146万人、人口の2%がひきこもりの状態にあることが示されました。

特に注目したいのは女性のひきこもりが40才以上64才未満では52.3%と半数を超えました。今までひきこもりは男性が何倍か多いと思われていましたが実体はそれほど差はないことが示されました。ひきこもる女性が意思表示の声を上げ始めたのかもしれませんが。或いは社会の閉塞感に対する異議申し立てなのでしょう。声を上げられなかった人が声を上げ始めたというのは何か質的な変化が起きている証拠になるのかもしれませんが。

たくさんの方が就労した後にひきこもりの状態になっていることを考えると、人と仕事の整合性に問題があるので、関係を作り変えることも必要ではないかと思います。仕事に合う人を育てるよりも人に合った仕事を作り出すことも考えなくてはならないと思います。ダイバシティー就労の中身を考えなくてはならないところに来ていると思います。

もう一つの点は、ピアの力を生かすことです。ひきこもった人がどんな人に相談したいのかについては、ひきこもりの経験のある人が高い要求度となっています。課題解決型の相談は大事ですが、その前にしっかり受け止めてもらえる事を望んでいるようです。ピアの関係性の中で寄り添いながら安心を得られる相談が望まれているようです。



ピアの関係性では、相手の問題を直そうとする、支援—被支援の関係よりもお互いに支えあい、一緒に考え、励ましあう対等な関りの関係の必要性が示されました。KHJの実態調査でも、今すぐ問題が解決しなくても良いので、丁寧に話を聴いて欲しい、信頼できる関係を作って行ってほしいという声が多く出てきています。

時間に制約されずいつでも相談できる場の必要性、誰もが取りこぼされない体制づくり、継続して長くつながり続ける支援が求められています。これらはピアサポートセンターが日常的に頑張っている仕事の内容と繋がりがあっています。ピアによる相談だけでなく家庭訪問、地域家族会への参加、支援のための人材育成研修など幅広いですので、ピアサポーターの皆さんの負担は重いものがあります。親や支援者が力を貸してくれることは大変ありがたい事です。

私は子どもがひきこもってから20年近く疑問に思う事があります。それはどうしてこの国にこれだけひきこもりが多く出現するのかという事です。河合隼雄の「中空構造日本の深層」にはヒントがあるように思いますが、よく分かりません。どなたか教えてくださいませんか？

●臨床心理士との連携について

令和3年～4年にかけて全国臨床心理士会がKHJの支部に入り連携や支援をしてきましたが、令和5年度のWAMの助成金に採択されませんでした。今年の連携活動は予算の無い中で始まることとなります。高知の場合は池先生と相談していますが、自殺対策の助成金があるので頑張って続行できると思いますが、回数などは減る予定です。

どうしてこんな大事な事業が採択されないのか不思議です。助成金を出す方の機関は助成事業の選定を外部委託しているところが少なくないようです。



●ひきこもりの解決—ある家族の場合

やいろ鳥の会設立初期から会員だったお母さんが先日久しぶりにサロンを訪れて退会の挨拶をしてくださいました。ひとしきり昔の話に花が咲き、家族の現状を報告してくれました。そのお母さんは80才台になり、ご主人も家庭菜園が健康の源との事で加齢と健康が今の課題でお母さんも車での買い出しなどが段々と不自由になる中で、家事や菜園の作業を息子さんに頼るようになってきました。息子さんは段々と親の仕事

を替わってくれて大変頼りにしているとのことでした。

仕事にはいかないままでしたが、段々と家族関係も良くなり息子さんの役割が増えてきています。たまには息子の運転で母親は長いドライブを楽しんでいると言っていました。今は何かが心配という事もなくみんなそれなりに健康で楽しく暮らしている。ひきこもりや仕事の話はしませんが日々の家族の幸せをゆったりとかみしめているとのことでした。

このままやいろ鳥の会に留まっても勉強会に出る気力も失せていく中で、そろそろ退会の潮時かと思うようになってきたとの事。気にかかるのは昔のやいろ鳥の会の皆さんの事で、今どうしているのか気にはなっている。できればいつかOB(OG)会ができれば良いです。なるほどこういう解決の付け方もあるのかなと納得した次第です。

親も子も就労に拘らず命そのものを大切にしていける生き方が心底できるようになれば、また違った世界が見えてくるという事なのかもしれませんね。

5月活動カレンダー

- 5月2日(火) 家族サロン PM2～PM4 といろにて
- 5月4日(木) といろのパソコン教室 13:00～
- 5月9日(火) 家族サロン PM2～PM4 といろにて
- 5月11日(木) 佐川町社協かわせみさんから3名が1時半頃といろとピアセンを視察。
- 5月13日(土) PM2～やいろ鳥の会役員会、PM3～ピアセン役員会。
- 5月16日(火) 家族サロン PM2～PM4 といろにて
- 5月17日(水) 午後2時ごろからといろで食糧配布の予定。(こうち食支援ネットから)
- 5月18日(木) といろのパソコン教室 13:00～

5月23日(火) 家族サロン PM2~PM4 といろにて

5月28日(日) 親講座 はまゆうの横田先生の傾聴演習 東部健康福祉センター
3階集会室で午後1時半~4時半 (高知市葛島4-3-3) (無料)
子どもの回復に必要な事は親がきちんと子どもの話を聴くこと
から始まります。人の話を聴けるようになると自分の人間関係が
良くなり幸せになれる。幸せの大半は人間関係です。

5月30日(火) 家族サロン PM2~PM4 といろにて

6月活動カレンダー

6月4日(日) オーテピア図書館でひきこもり相談会
AM10:00~AM12:00 2組、PM1:00~PM4:00 3組の予約がとれます。
予約はピアセン開所中に電話で申し込んでください。

6月25日(日) 親講座 ファイナンシャルプランナー石川智氏
テーマ 『ひきこもり家族のファイナンシャルプラン』 (無料)
東部健康福祉センター 3階集会室で午後1時半~4時半 (高知市葛島4-3-3)

7月22日(土) 親講座 はまゆうの横田先生の構成的エンカウンターグループ
東部健康福祉センター 3階和室で午後1時半~4時半 (高知市葛島4-3-3)

●ピアセンの開所日

4月1日からピアセンの開所日が週4日に変更になりました。

月曜日担当 島崎健一郎 大川雅義

木曜日担当 島崎健一郎 交代要員

金曜日担当 島崎健一郎 交代要員

土曜日担当 石川佑太 永井志穂

曜日により当番が変わります。

曜日により当番が変わります。

日曜・火曜・水曜は休所日です。☎088-881-6301

●居場所 といろの開所日

(開所時間は原則 月、水、木、金、土の10時から16時です)

月曜日 当番・谷岡祥子 谷岡恭

水曜日 当番・谷岡 恭 久保田健志、

木曜日 当番・永井志穂

金曜日(女子会)当番 田上弘子 楠瀬浩子 三谷愛香

土曜日 当番・西原繁幸

といろの電話番号 088-881-2350



ピアサポートセンターでの相談について

いつ相談に来ても当番のピアサポーターが対応しますが、予約の電話を入れてくれると大変助かりますのでよろしくお願いします。お話の時間は概ね1時間以内でお願いします。

ピアサポートセンターからの訪問支援について

概ね月に一回程度の訪問をしていますが、訪問の日程などについては電話で相談させてもらっています。訪問時間は概ね1時間ですが、無理なく話せる場合は延長することもあります。

家族サロンについて

自殺対策補助金で運営している家族サロンは補助金の要綱が変わり、相談業務も一体として運営する事となりましたので、相談やお困りごともお聞きすることになりました。



地域ひきこもり支援センターでの相談など

ひきこもりに関する相談はどなたでも月曜から金曜まで県立精神保健福祉センター ☎088-821-4966 又は 地域ひきこもり支援センター ☎088-821-4508 で受け付けてもらえます。気軽に相談や個人面談を申し込んでください。車は新庁舎の駐車場に止めることができますので入り口の守衛所で精神保健福祉センターに行きたいと伝えてください。面談の場合は前もって電話で予約をとってから訪問してください。

やいろ鳥の会年会費の払い込み 年会費は一家族3000円です。

振込先は 四国銀行 山田支店 (普) 0602101

全国ひきこもり KHJ 親の会高知県支部やいろ鳥 代表 竹中あおい

入会ご案内 やいろ鳥の会の年会費は3000円です。会長に入会しますと伝えて会費を振り込むか親講座・家族サロンなどで支払って住所と携帯番号、あればメールアドレスを登録すれば会員になる。退会は会長にその旨伝えれば退会になります。

フジモンのスプレーアート個展については

同封のチラシを参照してください。 (丁)

